地震と竜巻

　これは私がアメリカのウィスコンシンに住んでいた時の話です。私は 2 週間ほど東京に帰りました。ある日、両親の家に母と叔母と私の 3 人でいたとき、地震が起こりました。始めは気が付かないほどの小さな揺れでした。叔母が最初に気が付き、「あ、地震だ」と言いました。その数秒後、私も揺れを感じました。揺れはだんだん大きくなり、家具がガタガタと揺れ始めました。叔母はなぜかテレビを押さえました。私は「テーブルの下に入って！　テレビなんかどうでもいい！」と言いました。その間も揺れはだんだん大きくなっていきます。私たち三人はテーブルの下にいました。その時、私は「地球が割れて、もう終わりだ！」と思いました。それほどすごい揺れでした。母が大声で「外に出て！」と叫びました。両親の家は古いので、壊れるかもしれないと思ったそうです。私はソファのクッションをつかみ、頭を守って、外に出ました。歩けないほどの揺れでした。道には店や家から出てきた人がたくさんいました。中には怖さで歩けなくなっている人もいました。幸い隣は屋外駐車場で、周りから何かが落ちてくる危険がないのでそこに避難しました。揺れは 4～5 分続きましたが、私には永遠に感じられました。

　両親の家は無事でした。家の中に入ってニュースをつけました。そして、電車が止まっていること、地震が発生した場所に近い東北地方では恐ろしい大津波

が起こっていることを知りました。

　大きな地震の後だったので、その後も１時間に１回ぐらい大きな地震が起こりました。叔母はもちろん自分の家に帰れず、両親の家に泊まりました。すぐに外に逃げられるよう、リビングルームに布団を３つ敷きましたが、怖くて眠ることはできませんでした。地震を知らせる警報を聞くためテレビはつけたままにしておきました。いつでも外に逃げられるようにパジャマは着ないで服を着ていました。

　その５日後、私はアメリカに戻らなくてはいけませんでしたが、家族が心配で東京に残ろうと思っていました。まだまだ地震が続いていたからです。でも、「一人でも安全な所へ行ってくれる方が、私の心配が少なくなる」という母親の言葉でアメリカに戻る決心をしました。その時、両親の隣の家には弟の家族が住んでいて、小さな子供が４人いました。父は入院をしていたし、母には心配する人が多かったのです。家族をおいて東京を去るのはとてもつらかったです。

　ウィスコンシンに戻ってからは、１日に何度も母と電話で話しました。「今日も揺れた」「さっきも揺れた」という話ばかりでした。

https://www.irasutoya.com/

ウィスコンシンに戻って５日目、同じ町に住む友達から電話がありました。「今晩、竜巻があるかもしれないから、注意しておいたほうがいい」と言われました。私は水やスナック、携帯電話、財布などをリュックにつめ、避難先で、物が飛んできても怪我をしないようにかぶるため毛布も用意しておきました。でも、外はとてもいい天気で静かだったので大丈夫だろうと思っていました。

夜、テレビをつけていたら竜巻警報が鳴り、避難指示がでました。私はリュックを担ぎ、毛布を抱えてアパートの地下に避難しました。地下にはアパートの他の住人二人もいました。外では風がゴーゴーとおそろしい音を立てていました。雷もビカビカと何度も光りました。1 時間半ぐらい経つと警報が消えたので、部屋に戻りました。次の日、アパートから数マイルぐらいのところを竜巻が通り、建物が壊れたということを知りました。

つまり、私は２週間という短い間に、大地震と竜巻を経験したのです。もう、こんな経験は２度としたくありません。

（1471 字）

（2024.2 Written by Mami TANAKA）

この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例）出典：「たどくのひろば」（https://tadoku.info）

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.